

地域中学生の為のガラス彫刻巡回展

武政健夫 ガラス彫刻展

光と影が刻む透明の世界

2025.10.13(月・祝)—31(金)

10:00～19:00(最終日は各会場16:00まで)

四万十町 十和地域振興局	10.13(月・祝)—15(水)
大月町 農村環境改善センター	10.17(金)—19(日)
窪川四万十会館 多目的室	10.21(火)—23(木)
馬路村集会センター うまなび	10.25(土)—27(月)
仁淀川町役場 多目的ホール	10.29(水)—31(金)

10:00～17:00(最終日16:00まで)

どなたでも自由に見ていただけます。

入場無料

主催／四万十町教育委員会、大月町、

仁淀川町教育委員会、馬路村教育委員会

協賛／武政健夫ガラス彫刻後援会(代表 村田製作所相談役 村田恒夫)

協力／株式会社大洋工芸



地域中学生の為のガラス彫刻巡回展

武政健夫ガラス彫刻展 光と影が刻む透明の世界

世界最高品質、

ドイツ ショット社の光学ガラスを素材にした光と影が刻む透明の世界



たけまさ たけお 武政 健夫氏 プロフィール

高知県四万十町(窪川)出身 1950年生まれ。

数世紀に亘る伝統技法であるカパーウィールエングレイヴィング(銅盤ガラス彫刻)の現代の巨匠。

1969年イギリス滞在中にガラス工芸と出会う。1977年にカールデュイスブルグ奨学金を得てドイツで語学とヨーロッパガラス史を学ぶ。1978年オーストリア国立クラムザッハガラス学校に入学。1982年に最優秀で卒業後、米ニューヨーク州のコーニング社スチューベングラス部門にマスターエングレイバーとして入社。在職中に制作した作品の一部は、歴代アメリカ大統領の贈り物として各国の元首、ロイヤルファミリーに所蔵される。レーガン大統領が来日時、昭和天皇に贈られた「バタフライ」も彼の制作作品。

1989年に独立した後は、アメリカでフリーランスのガラス彫刻家として活躍していたが、48年間の外国生活を終えて、現在は高知県四万十町の自宅で制作を続けている。

武政健夫ガラス展によせて

武政健夫さんのガラス彫刻作品のすばらしさは写真を見るだけでは判らない。トンボやカゲロウの羽といった微細な模様や硬いガラスに花びらやスカートといった柔らかな質感が表されている。二つの三角柱の彫刻された面同士を背中合わせに置き、異なる角度から作品を見ると、それぞれのモチーフが交互に見えたり、一緒に見えたりする不思議さも面白い。その豊かな表現力、高い技術力は世界中を見ても追随する人はいない。唯一無二の本物を中学生の皆さんにぜひ鑑賞していただきたい。

村田恒夫(村田製作所相談役 武政健夫ガラス彫刻後援会代表)

